

米国株の先行きを左右する米企業決算



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米国株のカギを握る決算スタート

米国株の先行きを見る上で重要な米企業の決算発表がスタートしました。ロシアへの制裁強化に伴う資源価格上昇への懸念や、コロナ感染再拡大に直面する中国経済の先行き不安、インフレ抑制に向けたFRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締め加速への警戒感など、米企業を取り巻く環境は不確実性が増えています。

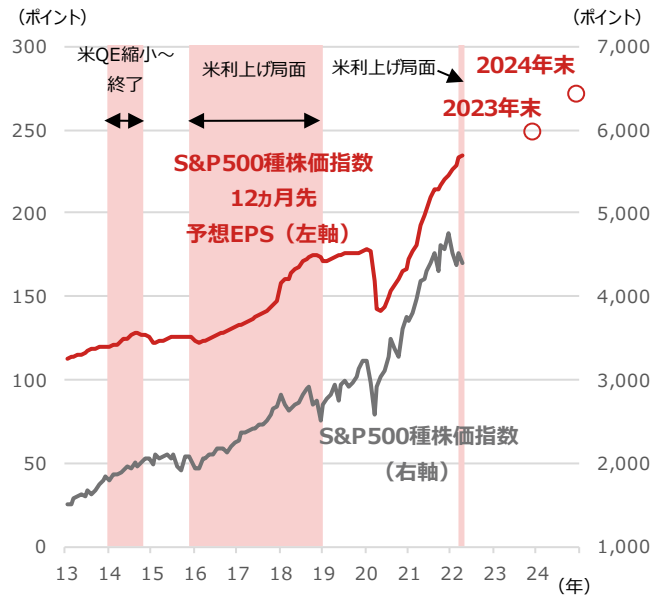
もっとも直近の米企業のEPSをみると、多くの不確実性が存在するにもかかわらず、今後も利益成長が続くと予想されています。EPSと株価は連動する傾向がある点（右上図）を考えると、現在の株価は懸念先行で下落しているといえ、決算発表で良好な企業業績が確認できれば、米国株への見直しが進む可能性もあると考えられます。

ポイント② ハイテク大手の決算内容が焦点

米企業決算は事前予想に対して実績が上振れる傾向が続いています（右下図）。2022年1-3月期決算の4月14日時点の集計値は、事前予想に対して0.6%ポイントの上振れとなっており、実績が事前予想を上回った企業の比率も約77%と順調なスタートを切っているといえます。

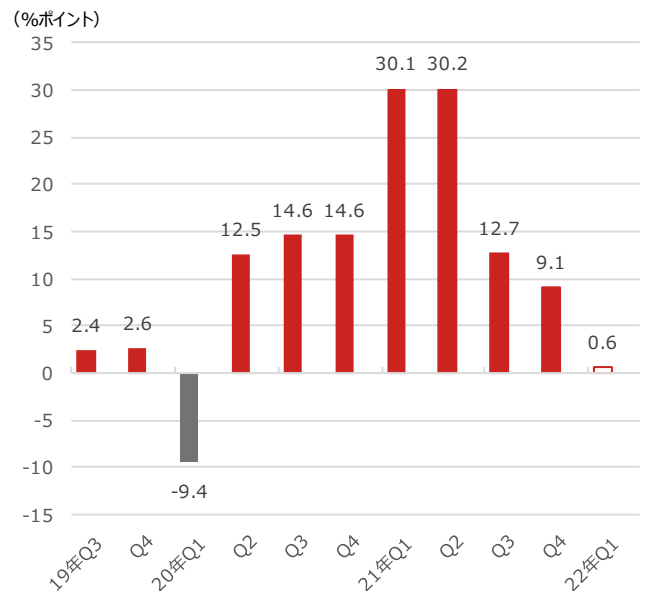
2022年1-3月期業績を発表した韓国のサムスン電子の連結営業利益が前年同期比50%増となったほか、台湾のTSMC（台湾積体回路製造）の純利益が同45%増と四半期ベースで過去最高を更新するなど、世界的にみてもハイテク企業の好決算が目立ちます。こうした点は、S&P500種株価指数の構成ウェイトの高いハイテク業種で、事前予想を上回る決算が発表される可能性を示唆しているともいえ、好調な決算が確認できれば、米国株の見直し買いにつながる可能性が高いと思われます。

S&P500種株価指数と同予想EPS（1株当たり利益）



期間：2013年1月末～2022年4月14日、月次
 ・予想EPSの実線は12ヵ月先予想EPS
 ・○印は2023年末、2024年末時点の予想EPS（Bloomberg予想、2022年4月14日時点）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500企業のEPS成長率の事前予想と実績値との差



期間：2019年Q3（7-9月期）～2022年Q1（1-3月期）、四半期
 ・事前予想は決算期終了直前週の数字を使用
 ・2022年Q1は4月14日発表分まで
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。